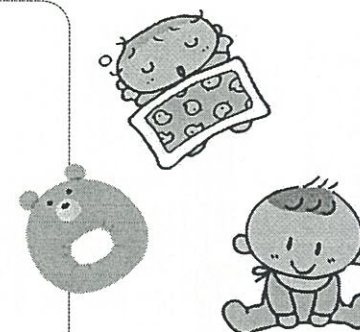


豊中市 教育保育環境 ガイドライン 評価シート（乳児編）

◇乳児編の評価をするときの留意事項

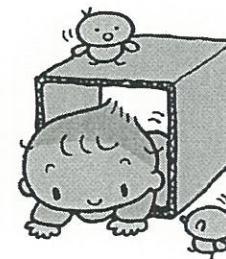
- * 乳児期は、特に月齢による差も大きく、一般的な年齢や発達だけを基準にしないで、評価することが必要です。子ども理解をどのようにしているか、そのことに対して、どのように環境を整え、関わりを考えているかを評価する必要があります。
- * 乳児期は、要録や指針に示されている10の姿(87ページ参照)に向かう基礎の時期なので、一つ一つの姿が、10の姿にどのようにつながっていくのかを意識的に見ていく必要があります。その姿を、集団としてではなく、個別の育ちとして、丁寧に見ていきましょう。(幼児とは違って、例えば、協同するということも、できるかどうかではなく、自分の思いを出せる、まねするなど、友だちを意識して関わっていくような姿を大切にすること)



プロセス(過程)の質 評価の柱	時間：	特徴：	実施日：			
	クラス：	児童数：	評価者：			
	年齢：	障害児の数：				
	ねらい		評価結果			
I 空間と家具			1	2	3	4
①日常のケア、遊び・学びのための教材・家具・備品	安心し、楽しく過ごせる					
②遊びのための室内構成(安心して落ち着ける空間)	気持ちの良い生活ができる					
③粗大運動遊びのための空間設備・備品(滑り台・三輪車など)	適切な活動を選び身体を動かして充実感や満足感を得る					
II 養護個人的な日常のケアー (生活の環境づくり)			1	2	3	4
①食育	食べることを楽しむ					
②排泄	自分で用を足せる					
③午睡	身体を休めて休息の時間を過ごす					
④保健衛生	自分の身体を大切にす気持ちをもつ					
⑤安全	安全に気をつけて行動する					
III 言語と文字、思考力			1	2	3	4
①聞くこと話すこと (言葉の理解を助ける)	未知の言葉と出会い話す楽しさを知る					
②伝え合い(コミュニケーション)	好奇心を引き出し、言葉のやり取りを楽しむ					
③絵本 (印刷文字に親しむ環境)	文字に出会い、絵本の楽しさ 探す・知る喜びを味わう					

IV 活動（環境があるかどうか）		1	2	3	4
①運動(粗大運動・体を使う)	身体を動かすさまざまな活動を十分に楽しむ				
②運動(微細運動・手や指を使う)	手や指を使い集中して遊ぶ				
③造形	作ったり描いたりしてさまざまな表現を楽しむ				
④音楽/リズム	感じたことや考えたことを音や動きで楽しむ				
⑤ごっこ遊び	イメージを形にして楽しみ、友達と共有する				
⑥積木	構成を楽しみ、思いを表現し、友達と共有する				
⑦砂/水	砂や水に触れ、感触遊びを楽しむ				
⑧自然/科学	自然に触れ、好奇心や探求心をもつ				
⑨算数/数	遊びや生活の中で数、量、形に親しみ数字の意味に気付く				
⑩ICTの活用	テクノロジーで遊びや生活の幅を広げる				
⑪多様性の受容	人に違うところと同じところがあることに気付く				
V 相互関係		1	2	3	4
①個別的な指導と学び(子ども理解と子ども理解の上に立った保育者の関わり)	一人ひとりの特性に応じた指導に支えられて学びに向かう				
②保育者と子どものやり取り(保育者と子どもの関係)	子どもが尊重され、認められ、支えられる				
③子どもと子どものやり取り	他の幼児の考えや感じ方に触れる				
④望ましい態度・習慣の育成	自分でなくてはならないことを自覚して行う				
VI 保育の構造(日課)		1	2	3	4
①1人1人が自由に遊びを選択して遊ぶ活動	活動を楽しむ中で、自分で考えたり助けを得たりする				
②クラス集団で遊ぶ活動	他の幼児や保育者と親しみ合い、支え合う				
③障害のある子への配慮	ともに育つ意識を持って支え合う				
④家庭に配慮を要する子どもへの関わり	適切な対応や援助ができるように関わる				

【総合評価・メモ】(見えてきた課題など)



I 空間と家具

1:不適切 2:最低限 3:よい 4:とてもよい

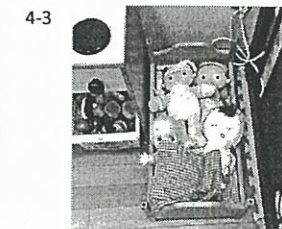
乳児編

① 日常のケア、遊び・学びのための教材・家具・備品	段階	評価項目	いいえ	はい	備考(注釈・事例など)
		1	1-1 生活のための必要な家具や設備がない(自然の採光がなく、換気も十分でない) 1-2 保育室が狭く、出入りできる人が限られているなど生活のための動線が考えられていない 1-3 自分の持ち物を整理しておく場所がないなど個人のスペースがない 1-4 遊べるスペースが十分ではなく、十分に遊ぶことができない		
<項目の視点> ★ 基本的な家具・ロッカーの設置 ★ 誰もが出入りできる室内 (障害があっても、あるいは保護者の出入り) ★ パーソナルな場所、落ち着ける場所 ★ 遊びのための室内構成	段階	評価項目	はい	いいえ	
	2	2-1 日常の決まったケア(食事、睡眠、遊びなど)をするために十分な家具や設備がある 2-2 保育者、保護者、子どもが自由に出入りでき、日常のケアのためのスペースが確保できる 2-3 自分の持ち物を整理しておく場所があり、個人マークや、背の高さに合わせるなど配慮されている 2-4 遊べるスペースがあり、コーナーが確保されている			2-1 採光と共に外が見える窓がある。(自然の採光があり、保育室は明るく換気も十分できる) 2-2 床材に工夫がある。(畳・マット)
	3	3-1 生活のための家具が年齢や個別ケアに対して充実している 3-2 子ども達の動線を見据えて生活スペース・遊びのスペースが確保されている 3-3 遊びのコーナーの中に、一人または少人数で遊べるスペースがある 3-4 子どもの興味関心のある遊びのコーナーが2つはある			3-1 個々の成長に合わせた椅子や机が理想だが、足台背当てなどの工夫をしている。 3-3 障害のある子どもへの配慮がなされている。
	4	4-1 生活のための家具は誰もが使いやすく工夫されている 4-2 生活する場(食事・着替え)と遊びを楽しむ場のスペースが分かれていて遊びの継続が確保できる 4-3 選べる量と種類の玩具があり、子ども自らがじっくりと遊べるような空間が確保されている			4-3 子ども自身が主体的に遊びを選べるコーナーが、常時構成されている。


memo



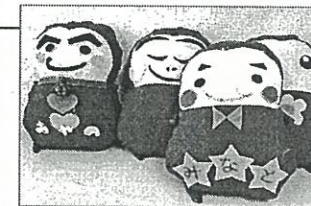
3-4ごっこ遊び



4-3

② 遊びのための室内構成 (安心して落ち着ける空間)	段階	評価項目	いいえ	はい	備考(注釈・事例など)		
	1	1-1	少人数で落ち着ける空間がなく、年齢や育ちに合わない玩具の提供が煩雑にあり整理されていない				
		1-2	保育者は、少人数で遊んでいる子どもたちに関わらない				
		1-3	コーナー遊びが確保されず、遊びの時間がない				
		1-4	子どもの絵の展示や子どものための展示がない				
	段階	評価項目	はい	いいえ			
<p><項目の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 2つ以上の1人または2人で遊べるスペース ★ 保育者の見守りと援助 ★ 遊びのコーナー ★ 展示スペース 	2	2-1	少人数で落ち着ける空間があり、特別な配慮を要する障害のある子が遊べる場がある			2-1 発達に応じてしっかりとした間仕切りを用意する。	
		2-2	少人数の子ども達が遊んでいるところに保育者がいて、安全に配慮しながら言葉掛けをしている				
		2-3	遊びを見守りやすいように空間(コーナー)は低く仕切られている				
		2-4	展示物・写真などが子どもの目の高さにある				2-4 モビール写真手作りおもちゃなど。(動物・家族や友達)
		3	3-1	年齢や育ちに合った玩具や道具があり、子どもが安心してゆったりと過ごせるスペースがある			
		3-2	保育者は、1人または2人で遊べる室内構成を見直したり、見守っている				
		3-3	コーナーで子どもが納得できるまで遊ぶことのできる時間の確保がある				
		4	4-1	自ら遊びを選択して、遊び込むことができるスペースがある			
		4-2	保育者は、子どもの興味のあることを見つける、継続して遊べるように関わっている				
		4-3	部屋を区切ることで多様な遊びができる空間を作り、その中で十分遊べる時間の確保がある				
		4-4	子どもが自発的に興味を持つような展示の工夫がなされている				
							2-4 
							3-1 子ども自身は見えないと思っている安全に遊べる場所がある。(保育者が見守れる場所) ソフトブロック動物ぬいぐるみなど手の届くようなところにやわらかいおもちゃがある。(個人の人形など)

memo



子ども一人一人の人形

③ 粗大運動遊びのための 空間設備・備品(滑り台・ 三輪車など)	段階	評価項目	いいえ	はい	備考(注釈・事例など)
	1	1-1	体を動かすことができるスペースが戸外にも室内にもない		
	1-2	危険個所が放置されていて使用できない遊具が数か所ある			
	1-3	年齢や発達に応じた遊具が整備されていない			
	段階	評価項目	はい	いいえ	
	2	2-1	体を動かすことができるスペースが戸外にあり、雨の日には室内で体を動かすことができるスペースがある		
		2-2	年齢や能力に応じた遊具が整備され、安全に遊ぶことができる		
		2-3	安全で自由に体を動かせるスペースがある(園庭・散歩先の公園など)		
		2-4	乳児が遊べるすべり台や三輪車(固定遊具や体を使って遊べる遊具)がある		
	3	3-1	体を動かして遊ぶ場所にどの年齢も子どもが容易に行くことができる		
		3-2	ハイハイ、走るなどその子どもの発達に合わせて、安全に遊べるスペースや遊具がある		
		3-3	乳児用の遊具(滑り台や、ペダルがないなど様々な種類、サイズの三輪車など)がある		
	4	4-1	一つ一つの異なった遊びが互いに妨げにならないよう遊べるスペースがある		
		4-2	遊具は定期的に点検され、年齢や発達に応じて、組み合わせ、場所などが変えられている		
		4-3	年齢や育ちに合った遊具の種類や量が豊富に用意され子どもは待ち時間なく遊ぶことができる		
		4-4	障害のある子どもの必要に応じた遊具がある		

＜項目の視点＞

- ★ 体を動かして遊べる
スペース・遊具
- ★ 安全性
(年齢と能力の適正)
- ★ 年齢発達に応じた遊具
障害がある子も使える遊具

memo



室内あそび



スロープ

Ⅱ 養護個人的な日常のケア(生活の環境づくり)

① 食育	段階	評価項目	いいえ	はい	備考(注釈・事例など)	
			はい	いいえ		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <項目の視点> ★ 栄養・量 ★ 衛生面 ★ 食事の内容・時間・食事の仕方など年齢への適正と個別配慮 ★ 保育者の関わり </div>	1	1-1			1-3 乳幼児の食事が適ばかりでよいというわけではない。また、メニューが、どんぶり物ばかりであったり、主食・副食と分かれておらず全てが器の中にごちゃまぜに納まっているなど、なっていないかを見ていく。 2-1 アレルギー児への配慮として、食べる場所、食器などについても配慮する。 2-3 主菜といくつかの副菜で構成された食事の提供があり、年齢に合わせた食材の切り方などの配慮がある。 3-3 素材そのものが味わえるようなメニューになっている。素材に親しむ機会がある。 3-4 料理の仕方や食材によっていろいろな食具を使って食べる。 4-3 日本ならではの献立(七草がゆなど)や、外国のメニューなどがある。菜園でできた野菜を調理して食べるなど。 4-4 全体計画の食育指導計画を参考にする。	
		1-2				
		1-3				
		1-4				
	2	段階		はい		いいえ
		評価項目				
		2-1	栄養や量が適切で、アレルギー児は、代替メニューが用意されている			
		2-2	配膳スペースは清潔で、食前の手洗いが徹底され、清潔習慣が示されている			
	3	2-3	食事・間食が子どもの状況に応じたメニュー・大きさ・量で、食事バランスに配慮している			
		2-4	保育者は、落ち着いて食事をする空間を保障し、安心して食事に興味を持てるよう言葉掛けするなど関わっている			
		3-1	栄養バランスや色取りに配慮された献立になっていて、個別に量などを調整できる			
		3-2	配膳時、食事中も衛生的な配慮がされていて、子ども達も理解して行っている			
	4	3-3	食材そのものに触れる(じゃが芋・人参の水洗い・菜園活動など)機会があり食材に興味を持つ工夫がされている			
		3-4	保育者は、楽しい雰囲気を作り、子どもが食べてみようと思えるように関わる			
		4-1	アレルギーや宗教食など個別に対応できるメニューがすべて提供されている			
		4-2	安全な食事の提供のため、消毒や検便が行われ、研修などで、全職員に徹底されている			
4-3	4-3	伝統的な食べ物、いろいろな地域や国の食文化に触れたり、身近な野菜の栽培をしたりする				
	4-4	保護者と共に、食事が、楽しく豊かになる取り組みを進める保育者がいる				

memo



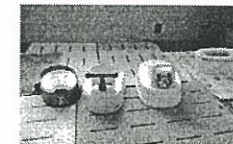
2-3



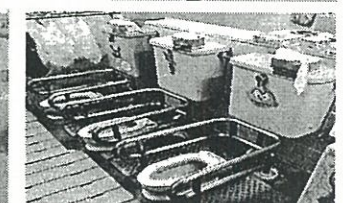
2-4

② 排泄	段階	評価項目	いいえ	はい	備考(注釈・事例など)	
		1	1-1 トイレが衛生的でない 1-2 必要な備品などが揃っていない 1-3 保育者は子どもにトイレに行くことを強制したり、反対に注意を払わなかったりなどの対応をしている 1-4 おむつ交換など場所が確保されていない、また、誰からでも見られる場所である			
	段階		はい	いいえ		
	2	2-1 トイレやおむつ交換台は、衛生的で清潔である 2-2 自分で排泄できる便器(高さ 大きさなど)がある 2-3 必要な衛生用品(トイレットペーパー・ペーパータオル・消毒用石鹸など)が揃っている 2-4 保育者の見守りがあり、必要な言葉掛けなどがなされている 2-5 年齢に応じたプライバシーが守られている			2-1 オマルが使用されているときは、専用の流しで使用后すぐに洗浄されている。 2-3 一人一人のおむつ交換マットが使われている。 2-4 低年齢児用はいつでも言葉を掛けられる場所にある。	
	3	3-1 トイレは明るく衛生的で常に清潔が保たれている 3-2 少なくとも2時間に1回オムツを見て確認するなど個人別のスケジュールになっている 3-3 保育者は子ども一人一人の性質や必要性に対応した言葉掛けや促しを行っている			2-5 年齢に応じてトイレのドアが設置されている、着替える場所が衛生的で、プライバシーが守られている。	
	4	4-1 トイレは明るく衛生的で使いやすい作りになっている 4-2 障害児用や発達に応じた排泄場所が整備されている 4-3 大人の見守りのもと子どもが自分で後始末しようとしたり手を洗ったりするなどの一連の動作ができる			4-1 家庭と同じように使えるなど温かい雰囲気になっている。	

memo



オマル



沐浴

トイレ

③ 午睡

<項目の視点>

- ★ 衛生面
- ★ 休息するスペース
- ★ 個別対応
- ★ 保育者の関わり

段階	評価項目		いいえ	はい	備考(注釈・事例など)	
1	1-1	寝具は定期的に洗濯するなどシーツやタオルケットなどの清潔が保たれていない				☆ 午睡時は、寝かしつけるときの雰囲気配慮する。また、継続的な見守りができているか点検し何か変化が見られた時には緊急対応できるようにしておく。 2-3 乳幼児突然死症候群を防止するため、あおむけ寝にする。午睡チェック表をつけるなど適切な見守りをする。 3-2 静かに寝ることが保証できる環境を保持する。 4-1 個々に応じた休息をすることができる環境である。 4-2 0歳児はベビーベットから出て遊べるようにする。
	1-2	明るい、騒々しいなど休息できる場所がない				
	1-3	眠たくなくても寝かされ、真っ暗で一人一人の子どもの様子を見ていない				
段階	評価項目		はい	いいえ		
2	2-1	衛生的な寝具があり、定期的に洗濯など、清潔が保たれている				
	2-2	静かに寝ることができるスペースがある				
	2-3	午睡の間、保育者が適切な見守りを行っている				
3	3-1	個々のリズムに応じて、寝たり静かに過ごせたりする場所がある				
	3-2	寝たい時に寝ることができる場所がある				
	3-3	個々の状況に合わせて、休息できるように関わりを変えている				
4	4-1	個別に適した休息の場所が保障されている				
	4-2	早く目覚めた子どもや眠らない子どもは、静かにゆったりと過ごせる場所がある				
	4-3	保育者は、子どもの状態を把握し、個別に応じて柔軟に調整して、休息や午睡の時間を過ごせるように関わっている				

memo




午睡

④ 保健衛生	段階	評価項目	いいえ	はい	備考(注釈・事例など)
	1	1-1	保育室の清掃がなされていない、おもちゃや家具が汚れている(消毒などほとんどなされていない)		
	1-2	手洗い石鹸・紙タオル・消毒・ティッシュなどの整備がなされていない			
	1-3	保育者は、子どもの保健的行動(手洗い・鼻水を拭くなど)にはほとんど注意が払っていない			
	1-4	保育者は、子どもの様子に意識が持っていない			
	段階	評価項目	はい	いいえ	
	2	2-1	保育室の行き届いた清掃がなされていて、玩具は定期的に消毒がされ清潔である		2-1 感染予防対策として口に入れたおもちゃを洗う個別のタオルを用意している。 2-2 鼻水が出ていたら自ら清潔にする事が気付ける環境(子どもの手の届く場所にティッシュがある)
		2-2	手洗い石鹸・紙タオル・消毒・ティッシュなどが常備され衛生環境が整っている		
		2-3	外遊びの後などには手洗いやうがいを促す保育者の言葉掛けや一緒に行うなどの動作を、わかりやすく伝えている		
	3	3-1	保育室は行き届いた清掃がなされ園全体が清潔である		
		3-2	手洗いやうがいなど保育者が保健的行動のモデルになると共に、歌や絵で示すなど、正しい方法が身に付くような環境がある		
	4	4-1	子どもにとっても使いやすいように、備品(ティッシュなど)の置き場が明確になっている		4-2 特別なことだけでなく、保育の中で使っている保健指導などの教材、絵本などを通して伝えるようにする。
		4-2	公的機関からの保健情報が保護者に伝えられる		

<項目の視点>
 ★ 衛生面
 ★ 保健衛生に関わる備品
 ★ 保育者の関わり

memo



手洗い場

⑤ 安全

- <項目の視点>
- ★ 危険個所の把握・対応
(遊具・戸外・室内)
 - ★ 安全の保持、点検
 - ★ 保育者の関わり

段階	評価項目		いいえ	はい	備考(注釈・事例など)
1	1-1	戸外室内の両方で子どもの安全が守られていない 危険な場所が2か所以上ある			1-1 薬品や洗剤、殺虫剤、エアゾールまたは、「子どもの手の届かないところに置く」と表示されたものについても、鍵のかからないところにあるなども含まれる。 1-3 見守りがあるかだけでなく、鬼ごっこなど保育の中で危険な行動をさせていないかについても見ていく。
	1-2	固定遊具など園内を定期的に安全点検していない			
	1-3	保育者の見守りが不適切で、子どもの行動に注意を払っていない			
段階	評価項目		はい	いいえ	
2	2-1	戸外室内両方で子どもの安全を考えた配慮がされていて、重大な事故をまねきそうな場所はない(指づめ防止扉・コンセントの位置・面取り柱・床など)			2-1 例えば、床の硬さが年齢に応じて違うなど、成長を妨げず促せるような建物づくりをしている。 2-2 安全点検チェックリストを月に1回必ずつける。 2-3 飲み込み防止(のどづめ)についても気を付けていく。
	2-2	安全点検日を設定し定期的に遊具、園舎などの点検が行われている			
	2-3	保育室に保育者がいる、園庭では全体を見守る職員を配置するなど子どもの行動に注意を払い、危険はないか見守っている			
3	3-1	室内、外に大きなけがをしそうな危険な場所がなく保育者の見守りの中でいろいろな経験をしている			
	3-2	子どもの危険を招きそうな行為を止めている保育者がいる			
4	4-1	起こりえる危険と子どもの特性を見極めて、適切な遊具の配置や点検が行われている			4-2 危険を予測する力を生活の中でつけていく。(安全意識)
	4-2	子どもが保育者と一緒に繰り返してきたことなら安全予測を自らできる			
	4-3	子どもが、安全に対する意識が高まるような関わりをする保育者がいる			

memo

① 聞くこと話すこと (言葉の理解を助ける)	段階	評価項目	いいえ	はい	備考(注釈・事例など)
		1	1-1 保育者は、子どもに話し掛けることがほとんどない 1-2 保育者は、子どもが話しかけていても、応答しないか決まっているいくつかの言葉だけで話している 1-3 保育者は、言葉以外の表現では反応しない		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <項目の視点> ★ 子どもへの語り掛け ★ 保育者の関わり </div>	段階	評価項目	はい	いいえ	
	2	2-1 保育者は、生活や遊びの中で、常に子どもに話し掛けている 2-2 保育者は、生活や遊びの中で子どもが伝えようとしていることを、肯定的に受け止め解釈している 2-3 保育者は、子どもの行動に言葉を添えたり、物と名前が一致するように伝えたりしている			2-1 朝は「おはよう」、ご飯を食べる時には「いただきます」等、あいさつの見本になる保育者がいる。方言は文化や生活の一部として捉えるなど、子どもの発言を否定しない。
	3	3-1 保育者は、様々な場面で子どもの言葉やしぐさなど話を聞き、場面に応じたやり取りをしている 3-2 保育者は、子どもとその子の興味に基づいてやり取りをしている 3-3 保育者は、子どもの疑問や関心ごとに個々に応じて分かりやすく説明している 3-4 保育者は、子どもの言葉に新たな言葉を付け加え、行動(行為)と言葉をつなげている			3-1 個々の育ちを理解し、その子に応じた言葉掛けをする。子どもが「ぎゅうにゅう」と言った時に「牛乳おかわりいるのね」とコップに牛乳を入れる行為もすることで言葉と行動をつなげていく。
	4	4-1 保育者は、年齢や個人差を考えて、気持ちの表現や新しい言葉などを使って語り掛けている 4-2 保育者は、子どもに簡単な質問をして好奇心を引き出す 4-3 保育者は、子ども同士が関わり合いやり取りできるように支えている			その時々保育内容に関わる掲示を活用 ▶



memo

② 伝え合い (コミュニケーション)	段階	評価項目		いいえ	はい	備考(注釈・事例など)	
		評価項目	評価項目				
<p><項目の視点></p> <p>★ 保育者の応答</p> <p>★ コミュニケーションツールのモデル</p> <p>★ 子ども同士のコミュニケーション</p> <p>★ 言葉以外の表現方法に触れる</p>	1	1-1	保育者は、子どもが仕草や表情・言葉で表出していることに応答しない			<p>2-1 子どもの話を、肯定的に受け止め、聞くことに重点を置く。例えば、姿勢を低くして聞く、理解しようとするなど聞いてもらえる安心感を持てるようにする。そして、保育者から、子ども同士のやり取りへと言葉でのコミュニケーションができるようつなげていく。</p> <p>2-4 子どもが、使うことができるように、「かして」「かわって」等の決まった言葉を使うなど、子ども同士が、使うことができる言葉のモデルになる。</p> <p>3-2 玩具の取り合いや遊びを巡るトラブルなどは、互いの思いを代弁しながら仲立ちをしていく。気持ちを、言葉で表現できるように年齢やその子に合わせた言葉を使う。</p> <p>4-2 問いかけへの返答の時間を考えるなど年齢に応じた応答がなされる。</p>	
		1-2	保育者は、子どもが話そうとするのを止めている				
		1-3	子どもと保育者あるいは子ども同士の関わりがなく言葉のやり取りが起こらない				
	2	2	2-1	保育者は、子どもが仕草や表情・言葉で表出していることを肯定的に受け止め応答している			
			2-2	保育者は、子どもとコミュニケーションをとる時に単純・的確な言葉を使っている			
			2-3	保育者は、年齢や個人の育ちを理解したうえでその子が言おうとしていることを理解しようとしている			
			2-4	子ども同士が関わり合える仕草や言葉のやり取りがある			
	3	3	3-1	保育者は、生活や遊びの中で子どもの様々な表出にタイミングよく応答し、やり取りの経験ができるようにしている			
			3-2	保育者は、気持ちを表現する表情やしぐさ、言葉があることを知らせる。			
			3-3	保育者は、子どもが伝えたい気持ちがある時に、言葉ではなくても伝え方が解り、それを支えている			
			3-3	保育者の支えで、友だちの表現の仕方(言葉・言葉以外)がわかって、やり取りすることができる			
			3-4	言葉以外の表現方法(手話など)や外国の言葉などに触れられるような展示や教材がある			
	4	4	4-1	保育者は、子どもが自分の思いを自分の言葉で伝えられるようにじっくりと聞き、周りの子どもたちと気持ちを伝え合えるように語りかけている			
			4-2	保育者は、聞くことと話すことのバランスが取れている			
			4-3	保育者は、楽しいことの共感などすべての子どもがやり取りに参加できるようにしている			
			4-4	言葉に困難を持っている子どもの特別な配慮(手話・点字の教材)があり、周りの子どもも触れられる			

memo

③ 絵本 (印刷文字に親しむ環境)	段階	評価項目	いいえ	はい	備考(注釈・事例など)
		1	1-1 子どもが手に取れるような絵本がほとんどない 1-2 子どもが絵本に触れる時間がない 1-3 保育者は子どものために本を読むことがほとんどない		
	段階	評価項目	はい	いいえ	
<ul style="list-style-type: none"> ★ 絵本の環境 ★ 絵本に触れる時間 ★ 保育者の関わり ★ 絵本を使う取り組み 	2	2-1 絵本コーナーなどが設けられていて、子どもが手に取れる場所に本がある 2-2 絵本に触れられる環境や時間がある 2-3 保育者は、1日に1度、絵本の読み聞かせを行っている 2-4 絵本を見る(読む)時は、子どもは喜んで集まり、読み手とやり取りがある			
	3	3-1 絵本の種類が豊富で、絵本コーナーが設けられている 3-2 絵本に触れている環境や時間が適切にある 3-3 保育者は、子どもの興味を持った絵本を個別的に読み聞かせている 3-4 保育者は、絵本で子どもが楽しんでいるやり取りなどを、遊びにつなげている			
	4	4-1 絵本の部屋(図書室)があり、年齢に応じた絵本や興味に合った絵本が常に手に取れるところに置いてあり、絵本の入替えが適切に行われる 4-2 自分で絵本を選び触れることのできる時間が十分に確保されている 4-3 保育者は、読み聞かせの時間に配慮の必要な子どもがいる場合は、特別な手立てがある 4-4 保育者は、子どもが興味を持った絵本を題材として、ごっこ遊びなど遊びを楽しんでいる			

memo



IV 活動(環境があるかどうか)

1:不適切 2:最低限 3:よい 4:とてもよい

① 運動 (粗大運動 体を使う)	段階	評価項目	いいえ	はい	備考(注釈・事例など)
	1	1-1	体を動かして遊ぶ空間や遊具がない		
	1-2	身体を使って遊ぶことができる時間がほとんどない			
	1-3	保育者は、安全の確保が十分でなく、子どもが楽しんでいることに、共感していない			
	段階	評価項目	はい	いいえ	
	2	2-1	体を動かして遊ぶ(寝返り、ハイハイ、つかまり立ち、歩く、走るなど)空間がある		
		2-2	決められた時間ではあるが、体を動かして遊ぶことができる		
		2-3	保育者は、見守りによって安全を確保している		
	3	3-1	色々な動きを体験できたり、自分から体を動かしたいと思えたりする自然・環境がある		
		3-2	子どもが主体的に選び、遊ぶことができる遊具がある		
		3-3	決められた時間だけではなく、自由に遊ぶことができる時間がある		
		3-4	保育者は、子どもの発達や興味に合わせて、柔軟に対応している		
	4	4-1	主体的に遊びたい、体を動かしたいと思える自然・環境が用意されている(自然環境だけでなく、それに近い遊具などを使った環境がある)		
		4-2	好きな遊びができる時間が十分にある		
		4-3	保育者は、十分な安全を確保すると共に、挑戦する姿を止めずに最後まで見守っている		
		4-4	保育者は、子どもが今楽しんでいることから、次の発達を見通した提案をしている		

<各項目の視点>
 ★ その遊びができる場所(空間)
 ★ その遊びができる遊具(おもちゃや道具)
 ★ 遊ぶ時間
 ★ 保育者の関わり

memo



2-1 ボールプール



2-2 思い切り体を動かして遊べる環境



3-2 いろいろな動きができる環境

② 運動
(微細運動 手や指を使う)

- <各項目の視点>
 ★ その遊びができる場所
(空間)
 ★ その遊びができる遊具
(おもちゃや道具)
 ★ 遊ぶ時間
 ★ 保育者の関わり

段階	評価項目	いいえ	はい	備考(注釈・事例など)	
1	1-1	いくつかの決まった道具やおもちゃがなく、変化したり工夫したりできるものがない			
	1-2	スプーンなど発達に即した道具を使う機会がほとんどない			
	1-3	道具(手や指を使って遊ぶのに適切な教材)を自由に使う時間がない			
	1-4	保育者は、子ども達の微細運動に関心をもって関わっていない			
段階	評価項目	はい	いいえ		
2	2-1	感触を楽しめるなど、指先を使って遊ぶことができる数種類の素材がある			2-1 柔らかい粘土や砂、つつる、ざらざらなど感触の違うもの
	2-2	ブロックやポットン落としなど手や指を使う遊具が十分にあり、遊ぶことができる			2-2 握る、入っては出すなど手指を使うおもちゃ
	2-3	スプーンなど目的にあった道具を試したり、使ったりする機会がある			2-3 生活の場面で必要な道具や、ペン、クレパスなど年齢に応じた必要な用具について、使う機会があるかどうか
	2-4	その時間だけでなく、くり返して取り組むことができる			
	2-5	保育者は、子どもの作ったものを肯定的に認めている			
3	3-1	様々な感触や変化することを楽しめる素材があり、いつでも指先を使うことができる遊びがある			
	3-2	一つのことにと没頭でき、こだわる時間や空間がある			
	3-3	生活の中に、手先を使う活動(ティッシュをとる、おやつを開けるなど)がある			
	3-4	保育者は、発達に合わせた道具や遊具で遊ぶときに、上手いくように一緒に遊んだり見守ったりしている			3-4 発達に合わせた道具や遊びなどは、参考資料;全体計画の教育課程を参照
	3-5	保育者は、子どもが作ったものを肯定的に褒め、丁寧に扱っている			
4	4-1	何度でも繰り返せるように、素材や道具、遊具は十分な量がある			
	4-2	繰り返して取り組むことができ、子どもが満足できるまで作ることができる素材や遊具、時間が用意されている			4-2 こだわって作りたい子には、満足できるまで取り組めるよう援助する
	4-3	一人一人の興味や関心に合わせて、次の課題を提案する保育者がいる(素材、作り方、道具の種類や使い方など)			



3-2 集中できる空間

memo

③ 造形

- ＜各項目の視点＞
- ★ その遊びができる場所（空間）
 - ★ その遊びができる遊具（おもちゃや道具）
 - ★ 遊ぶ時間
 - ★ 保育者の関わり

段階	評価項目		いいえ	はい	備考(注釈・事例など)
1	1-1	子どもが主体的に作ることができる環境がない(造形の用具、材料に触れる機会がない)			
	1-2	保育者は、子どもが造形活動することに関心がなく援助していない			
段階	評価項目		はい	いいえ	
2	2-1	造形活動を楽しむことができる場所や用具がある			
	2-2	必要な(いろいろな感触を感じたり、ちぎる、丸める、描くなどができるような)道具が用意されていて、その使い方を体験できる			
	2-3	保育者は、発達に応じた活動を計画し、子どもに体験させようとしている			
3	3-1	子どもが主体的に自由な発想で作れる道具や素材がある			
	3-2	道具や可塑性の高い素材が、多様に用意されている			
	3-3	モデルとして、本物に出会う機会が十分に用意されている			
	3-4	保育者は、子ども一人一人の思いが実現できるように援助をしたり作ったものについて子どもと話をしている			
4	4-1	工夫したり多様に表現できたりする道具や素材が十分に用意されている			
	4-2	自分が納得できるまで作ることができる空間や時間がある			
	4-3	作ったものを多くの方に見てもらえる場所などがある			
	4-4	保育者は、子どもの発達や興味に合わせて、方法、材料などを提案している			

memo



3-1 自由な発想で作る感触を楽しむ



2-2 いろいろな体験ができる道具がある



3-4 子ども一人一人に必要な援助

④ 音楽リズム	段階	評価項目	いいえ	はい	備考(注釈・事例など)	
	1	1-1	日常的に使える楽器、歌、わらべ歌など音楽に触れる環境がない			
	1-2	リズムに合わせて体を動かす機会がない				
	1-3	常に大きな音でいつも音楽が流れている				
	1-4	音楽や歌などに親しむことができるような保育者の関わりがない				
	段階	評価項目	はい	いいえ		
	2	2-1	子どもが自由に鳴らせる楽器が限られているがある			
		2-2	時間は限られているが、曲に合わせて歌ったり踊ったりすることができる			
		2-3	保育者は、年齢や季節に応じた音楽や自然の音などいろいろな音と出会う機会を作っている			
	3	3-1	打楽器や鍵盤楽器など子どもが自由に鳴らすことができる楽器が多様にある			
		3-2	楽器を自由に鳴らすことができる時間が十分にある			
		3-3	子どもが保育者と一緒に自分で曲を選択して歌ったり踊ったりできる環境がある			
		3-4	保育者は、子どもと楽しんで歌ったり演奏したり踊ったりしている			
	4	4-1	様々な音楽や楽器に触れる機会があり、子どもがしたいと思う時に、保育者と一緒に行ける			
		4-2	いろいろな楽器の演奏を生で聞く機会がある			
		4-3	保育者は、子どもの興味が広がるように、音楽や楽器など用意して子どもと一緒に楽しんでいる			

- <各項目の視点>
- ★ その遊びができる場所(空間)
 - ★ その遊びができる遊具(おもちゃや道具)
 - ★ 遊ぶ時間
 - ★ 保育者の関わり

memo



2-3 風鈴の音色を楽しむ



3-1 自由に楽器を鳴らす

3-1 手作りのマラカス

⑤ ごっこ遊び	段階	評価項目		いいえ	はい	備考(注釈・事例など)		
		1	2	いいえ	はい			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <各項目の視点> ★ その遊びができる場所(空間) ★ その遊びができる遊具(おもちゃや道具) ★ 遊ぶ時間 ★ 保育者の関わり </div>	1	1-1	ままごと(生活再現遊び)をするために必要な場所がない					
		1-2	多様なごっこ遊びを楽しめるおもちゃが不ぞろい、壊れているまたは用意されていない					
		1-3	子どものごっこ遊びに関心がなく、一緒に遊ぶ保育者がいない					
	2	段階		評価項目			はい	いいえ
		2-1	ごっこ遊びにつながるいろいろな生活経験を再現して楽しむことができる(食事を楽しむ、散歩で身近な動物を見る、買い物に行くなど)					
	2	2-2	ごっこ遊びに必要な場所やおもちゃ(本物に近いもの)があり、日常的に利用できる					2-2 ごっこ遊びで使うおもちゃは、年齢が低いほど、本物に近いおもちゃを用意する。(安全面に気を付け、扱いやすいものを選ぶ)
		2-3	保育者は、ごっこ遊びを一緒に楽しんでいる					
	3	3-1	年齢に応じたごっこ遊びができるように、必要な材料が多様に用意されている					3-2 素材は、乳児が口に入れたり、なめたりしても安全なものを選ぶ。
		3-2	様々なものに見立てられる素材(毛糸、布など)がある					
		3-3	ごっこの種類によりコーナーに分けられた空間がある					3-3 一つのごっこ遊びが、十分遊べるように、コーナーを分けて遊ぶ場合や、色々なごっこ遊びが繋がって遊びが発展できるようにするなど年齢や時期、遊び方によって変えられる空間。
		3-4	イメージが膨らませやすい環境や、継続して取り組める場所がある					
		3-5	保育者は、子どもの発想を肯定的に受け止め、より面白くするためにモデルになっている					
	4	4-1	絵本や経験をもとに保育者と一緒に子どもが主体的にごっこを展開することができる					4-1 コーナー 材料 モデル などイメージが膨らむようなものが身近にある 多様で、ステレオタイプではないごっこ遊びができる。
		4-2	保育者は、子どもがイメージしたことを実現させ、発展させるために必要なことを提案している					

memo



3-1 年齢に応じたごっこ遊びの材料

3-2 見立てられる素材

⑥ 積木 <各項目の視点> ★ その遊びができる場所 (空間) ★ その遊びができる遊具 (おもちゃや道具) ★ 遊ぶ時間 ★ 保育者の関わり	段階	評価項目	いいえ	はい	備考(注釈・事例など)
	1	1-1	自由に使える積木がない		
	1-2	積木で遊んでいる子どもに関心を持って、楽しさを共感する保育者がいない			
	段階	評価項目	はい	いいえ	
	2	2-1	自由に使える積み木がある		
		2-2	一人一人が、じっくり作れる場所や時間がある		
		2-3	保育者は、作っているときに見守り、必要な時には共感したり肯定的に受け止めたりしている		
	3	3-1	自由に使える色々な大きさの積木が十分ある		
		3-2	友達や保育者の真似をして作ったり、何度でもくり返し作ったり壊したりすることができる		
		3-3	保育者は、イメージが膨らんだり、工夫したりできるように援助している		

memo



2-2 じっくり作ることができる場所

3-1

⑦ 砂・水	段階	評価項目		いいえ	はい	備考(注釈・事例など)
		1	1-1	水や砂を使って遊ぶ場所がない		
	1-2	汚れることを気にせず感触遊びを楽しむ場所や時間がない				
	1-3	感触遊びの楽しさより、汚れることを気にする保育者がいる				
＜各項目の視点＞	段階	評価項目		はい	いいえ	
		2	2-1	水や砂遊びができる園庭や公園がある		
★ その遊びができる場所 (空間)		2-2	砂や土、水を使って自由に遊べる時間がある			
★ その遊びができる遊具 (おもちゃや道具)		2-3	保育者は、感触を一緒に楽しんでいる			
★ 遊ぶ時間	3	3-1	砂や土、水を日常的に自由に使うことができる			
★ 保育者の関わり		3-2	必要なおもちゃがすぐ取り出せる場所にある			
		3-3	保育者は、一緒に感触を楽しみ、気持ちや発見に共感している			
		3-4	ほとんどの保育者が汚れることを気にせず、楽しんでいる			
	4	4-1	発達や興味関心に応じて、選択できる複数の場がある			
		4-2	水を混ぜる、流すなど展開して遊ぶ幼児の遊びを見たり、まねしたりすることができる			
		4-3	保育者は、砂や土の性質の違いなどの知識があり、遊び方のモデルになっている			

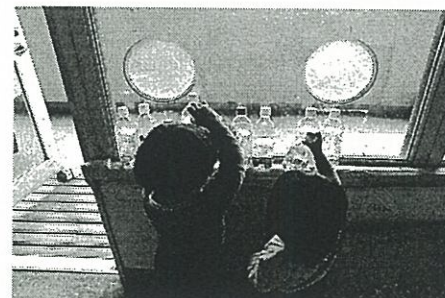
memo



3-1 砂や土など自由に使える場所・遊具

⑧ 自然・科学 ＜各項目の視点＞ ★ その遊びができる場所 （空間） ★ その遊びができる遊具 （おもちゃや道具） ★ 遊ぶ時間 ★ 保育者の関わり	段階	評価項目	いいえ	はい	備考（注釈・事例など）
		1	1-1 植物や小動物、虫など自然に触れることができる場所が身近にない 1-2 自然事象などを体験したり、見たりすることが出来ない 1-3 保育者が、自然事象などの不思議さや美しさなどに共感しないし、話をしない		
	段階	評価項目	はい	いいえ	
	2	2-1 身近に植物や昆虫など自然に触れられる場所がある 2-2 保育者は、自然に関わって感じた不思議さや発見を共感している			2-1 園庭など自然に触れる場所や、外に出られなくても窓があつて外が見えるなど
	3	3-1 日常的に、自然物や科学遊びの素材に保育者と一緒に触れることができる 3-2 保育者は、自然に関わる遊び、科学遊びを子どもと共感し、モデルになっている			3-2 保育者と一緒にすることで、安心して触れることができる、また、興味を持てるように、まず、保育者が楽しむ
	4	4-1 日常的に自然に触れられる環境があり、継続的に取り組むことができる 4-2 不思議だと思える仕掛けが園内にある（意図的あるいは意図的でない） 4-3 保育者は、自然や科学について知識を持ち、子どもの遊びが深まる指導をしている			4-2 自然に起きたことをそのままにしておくなど、保育者がしかけるだけでなく、子どもが気づけるような環境。

memo



4-2 いろんな光が見えるよ



3-1 自然物に触れることができる



⑨ 算数・数	段階	評価項目	いいえ	はい	備考(注釈・事例など)
	1	1-1	日付や時計、その他数字に触れることができる環境がない		
	1-2	形、量、大きさ、重さなどに触れられるような環境がない			
	1-3	数や量に触れられるような環境の配慮をする保育者がいない			
	段階	評価項目	はい	いいえ	
	2	2-1			
		2-2			
		2-3			
	3	3-1			
		3-2			
		3-3			
	4	4-1			
		4-2			
		4-3			

- <各項目の視点>
- ★ その遊びができる場所(空間)
 - ★ その遊びができる遊具(おもちゃや道具)
 - ★ 遊ぶ時間
 - ★ 保育者の関わり

memo

⑩ ICTの活用	段階	評価項目	はい	いいえ	備考(注釈・事例など)	
<p><各項目の視点></p> <p>★ その遊びができる場所 (空間)</p> <p>★ その遊びができる遊具 (おもちゃや道具)</p> <p>★ 遊ぶ時間</p> <p>★ 保育者の関わり</p>	1	1-1 生活や遊びの中に、ICTを活用する機会がない			<p>ICTとは</p> <p>Information and Communication Technology</p> <p>「いつでも・どこでも・なんでも・だれでも」</p> <p>簡単にネットワークが利用でき、世代や地域を超えたPCの利用や人と人、人とモノを結ぶコミュニケーションを重視。文科省では、公立学校においてPCやデジタルテレビを導入し、子ども達の情報活用能力の育成を図るための「ICT環境整備事業」を展開している。</p>	
		1-2 年齢にふさわしくない使い方をしている(ゲームの時間が長い、テレビを見せっぱなしにしているなど)				
		1-3 ICTについて知識がなく、保育の中で利用しようとする保育者がいない				
	段階	評価項目		はい		いいえ
	2	2-1 生活や遊びの中で、調べる一つ的手段としてPCなどを利用することがある				
		2-2 テレビを見る時は時間を決めている				
		2-3 保育内容が広がるように、デジタル教材、カメラ、DVDなどを利用する				
	2-4 保育者は、調べたり、情報を共有したりするためにデジタル教材などを利用している					

memo

⑪ 多様性の受容

- ＜各項目の視点＞
- ★ その遊びができる場所
(空間)
 - ★ その遊びができる遊具
(おもちゃや道具)
 - ★ 遊ぶ時間
 - ★ 保育者の関わり

段階	評価項目		いいえ	はい	備考(注釈・事例など)
1	1-1	多文化など日本とは異なる社会や文化に親しむ環境がない			
	1-2	多様性を受容できるような環境や保育の計画がない			
	1-3	保育者がステレオタイプの対応をしている			
段階	評価項目		はい	いいえ	
2	2-1	いろいろな国があることを写真やイラストで子どもに知らせる環境がある			
	2-2	子どもが、多様な文化に触れる機会がある			
	2-3	子どもが、自分の地域や国の文化などを生活の中で触れる機会がある			
	2-4	保育者は、多文化など多様性を理解して、違いを認め、積極的に関わっている			
3	3-1	クラスに応じた多文化への興味、関心が広がる教材がある (ダンス 歌 絵本 言葉 食育、写真やイラスト、映像などで)			
	3-2	多様な国、家族構成、肌や体の違いなどを認め合えるような環境がある (例えばジェンダーを固定的に捉えるような遊具は置かないなど)			
	3-3	自分の園の事や、地域、国のことなど知る機会がある			
	3-4	保育者は、多様性を受容し、決めつけた見方で見ないで、認めたり、知ってほしいとしている			
4	4-1	子どもが多様な文化に触れる機会をもつ			
	4-2	自分の知っている言葉やジェスチャー、文化など、子どもが発信できる機会がある			
	4-3	保育者は、多様性を受容できるような援助ができる			

memo

V 相互関係

① 個別的な指導と学び (子ども理解と子ども理解の上に立った保育者の関わり)	段階	評価項目	いいえ	はい	備考(注釈・事例など)	
		1	1-1 保育者主導で、子どもは同じやり方、同じ活動をしなければならない 1-2 保育者は、子どもに個別に注目することがなく、子どもを理解していない 1-3 保育者は、問題が起こらない限り、子どもを見ていない 1-4 保育者は、教職員間で子どものことを話す機会がない			
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <項目の視点> ★ 個々の子ども理解 ★ 個々の子どもに対する適切な援助 ★ 多様な保育者の援助 ★ 教職員間の連携 </div>	段階	評価項目	はい	いいえ		
	2	2-1 保育者は、子どもの表情、言葉、行動から、子ども理解をしている 2-2 保育者は、クラスの子どもに興味や関心、発達に沿った遊びや生活の設定をし、援助している 2-3 保育者は、管理性の強い関わりではなく、共感したり、見守ったり関わっている 2-4 援助の仕方について、教職員間で話し合う機会がある				2-1 子ども理解の方法は、いろいろあるが、園で工夫して理解しようとしているかどうか。
	3	3-1 保育者は、表情や行動などを観察・記録し、遊びの何を楽しんでいるか、生活の何に困っているかなど内面を理解しようとしている 3-2 保育者は、個々の興味や関心のあることを見つけ出し、その思いや関心に沿った援助をしている 3-3 子どもとの対等性を大事にしなが、共感、見守りだけでなく、モデル、共同作業者としての援助を保育者がしている 3-4 子どもの内面の育ちについて話し合いを行い、日々の姿や、変化、関わり方などについて、教職員間で共有できている				3-1 子ども理解について、記録したり、分析したりできているか。場合によっては、カリキュラムを参考にする。 3-4 職員間で共有するための会議や、カリキュラムなどの共有について参考にする。
	4	4-1 複数の保育者が、観察、分析を行い、客観的な子ども理解を行っている 4-2 保育者は、子どもの内面の理解から、援助してほしいと思っていること(次の遊びの展開や生活につながるようなこと)を解って援助している 4-3 保育者は、対等性を大事にしなが、共感、見守り、モデル、共同作業者など姿や時期・発達に応じた援助をしている 4-4 子どもの内面の育ちを、言葉にし、映像化して話し合うことで、教職員間で関わりや、課題を共有している				4-3 保育者だけでなく、子ども同士の関わりが、あるかどうかを見ることで、保育者の関わり方も見えてくる。

memo

② 保育者と子どものやり取り (保育者と子どもの関係)	段階	評価項目	いいえ	はい	備考(注釈・事例など)
	1	1-1	必要なことがない限り、保育者と子どもが関わることがない		
	1-2	保育者は、関わるのが難しい子どもに対して、関心がなく、関わらない			
	1-3	年齢や時期、子どもの姿に合わせることがなく、いつでも保育者が援助している			
	段階	評価項目	はい	いいえ	
	2	2-1	保育者は、子どもに関わっている		
		2-2	保育者が関わると、子どもは喜んでやり取りしている		
		2-3	保育者は、子どもの姿に合わせて援助の仕方を変えている		
	3	3-1	どの子にも、やさしい声で視線を合わせての声掛け、スキンシップなど子どもが安心できる保育者の関わりがある		
		3-2	保育者は、言葉だけでなく、しぐさや表情などから、子どもの気持ちを時間をかけて聞くなど、子どもの気持ちを大切にしている		
		3-3	保育者は、年齢や発達の姿に合わせた援助をしている		
	4	4-1	保育者は、どのような場面でも子どもと対などに、応答的に関わっている		
		4-2	人との心地よい関わりモデルとなる保育者がいて、子どもがまねをして行動している		
		4-3	保育者は、年齢や発達だけでなく、一人一人の様子や、家での様子を把握して、その子に合わせた関わりをしている		

<項目の視点>

- ★ 特定の保育者との関わり
- ★ 子どもが安心できる保育者の関わり
- ★ 人との心地よい関わりモデルや、援助

memo

		段階	評価項目	いいえ	はい	備考(注釈・事例など)	
<p>③ 子どもと子どものやり取り</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p><各項目の視点></p> <p>★ 友達と過ごすことができる環境</p> <p>★ 子ども同士のやり取りのモデルとなる保育者</p> <p>★ 友達とのやり取りを共感したりつなげたりする保育者</p> </div>	1	1-1	保育者主導の保育がほとんどで、友達と一緒に過ごすことがない				<p>2-1 保育者が、子ども同士の関係を理解しているかどうかが大切。どんな関係性で遊んでいるのかを把握しておく。そのために、子ども理解の中で、関係性について記録、分析することが必要。</p> <p>2-3 子ども同士のおもちゃの取り合いなど喧嘩については一つの関係性として大切にす。思いを伝えることの弱い子どもは喧嘩をすることもないので、自分の思いを伝えられるようにすることが必要。</p> <p>3-1 子ども同士の関係性を育てるためには、保育者の関わりが必要。保育者がモデルとなって、友達のことを気にしたり、関わったりする姿を、保育者が応援していく。</p> <p>4-2.3 前提として、保育者がモデルとなって、いろいろな解決の方法を知らせていることが必要。そうすることで、まねをする子どもが出てくる。</p>
		1-2	子ども同士のやり取りがほとんど否定的である				
		1-3	保育者は、子ども同士の肯定的なやり取りを指導することがなく、けんかを止めるなどの必要な時だけ関わっている				
	2	段階		評価項目	はい	いいえ	
		2-1	遊びの中で、友達と一緒に過ごす空間や楽しさを共感できる時間がある				
		2-2	子ども同士がやり取りするなど関わるができる機会があり、関わり方のモデルになっている保育者がいる				
	3	2-3	保育者は、子ども同士のやり取りがうまくいかないときには、互いの思いを出すようにし、子ども同士をつなげている				
		3-1	自由遊びなどの時に、ほとんどの子が、友達を気にしてみたり、真似したりして遊んでいる				
		3-2	保育者は、遊びや生活の中で、子どもが共通して使えるしぐさや言葉を提案している				
	4	3-3	子ども同士の否定的なやり取りについては、保育者が互いの思いを聞きあって解決する				
		4-1	ほとんどの子が、友達と関わって遊ぶ楽しさを知っている。				
		4-2	泣いている子がいるなど、友達の様子に気付いて関わって行こうとする子がいる				
		4-3	生活経験をもとにした遊びや、発達、個々の姿に応じた遊びを保育者がしかけ、やり取りして遊ぶことのできる遊びが豊かにある				
		4-4	否定的な関わりがあった時に、物の取り合いなど、何度も解決していることは、子ども同士でやり取りし、保育者は一緒に解決しようとする姿を援助している				

memo



4-1 泣いている子を気にして関わる



3-1 友だちを気にして遊ぶ

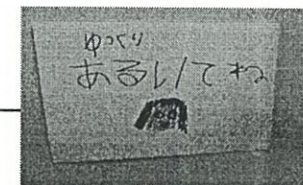
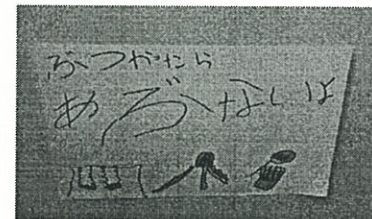
④ 望ましい態度・習慣の育成	段階	評価項目	いいえ	はい	備考(注釈・事例など)
	1	1-1	保育者から管理的にルールなどを示し、手を上げるといった体罰や、声を荒げる、食事をさせないなど子どもの人権を無視した方法で守らせようとする		
	1-2	ほとんど決まりや統率がなく、保育者は子どもが危険なことをしていても関心がない			
	1-3	望ましい行動が、年齢にふさわしくなく、保育者は、望ましくない行動に対して怒っているだけである			
	段階	評価項目	はい	いいえ	
	2	2-1	園での様々なルールを、子どもに分かるように伝え、保育者と一緒に守るようにしている		2-4 ルールや態度のベースは、子どもの命を大事にする、子どもの人権を守ること。要領や指針にあるように、生きるための基礎を培うということは外さないようにする。
		2-2	子ども達に分かるように掲示(絵や文字で)している		
		2-3	保育者が、心地よい人との関わり、年齢にふさわしい関わりを意識してモデルになっている		
		2-4	保育者は、子どもの望ましい行動を認め、望ましくない行動に対して、なぜだめなのかを丁寧に伝え、繰り返し伝えることで、子ども自身が気付けるようにしている		
	3	3-1	保育者は、園で生活するために必要なことを、年齢に合わせて子ども達に伝え、子ども達と一緒に守ろうとしている		3-2 子ども達のコミュニケーション力につながる。一人一人の興味や関わり方を大事に、一律な関わりではなく保育者が肯定的に受け止めていきたい。
		3-2	友達との関係や遊びの中で、上手いできないなどの問題を解決していくために、気持ちを伝え合ったり、関わり方や方法を保育者が伝えていき、経験している		
		3-3	保育者は、望ましくない行動に対して、なぜそうってしまったかを聞き、良かった行動、上手い行動ができるように、保育者が認めていく		
	4	4-1	子ども達が、安全でみんなが心地よく過ごせるためのルールを守る必要性を感じている		3-3 関わり方を保育者が認める、好きと言ってもらえるなど、関わり方を認めてもらえる大人がいることが、子どもの自己肯定感を高めることにもつながっていく。
		4-2	友達との関係や、遊びで上手いできない時など、何度も繰り返してきたことなら、保育者と一緒に子ども達がその解決に関わる		
		4-3	友達の気持ちを共感したり、気付いたりすることができ、相手を思いやる、尊重する気持ちを持って関わることができる		

＜各項目の視点＞

- ★ 園での様々なルールを子どもに伝える
- ★ 心地よい人との関わり方を保育者がモデルになって知らせる
- ★ 良い行動を褒め、成功体験をもとに望ましい行動ができるような関わり

memo

2-2,4-1 子ども自身が作った標識



VI 保育の構造(日課)

乳児編

① 一人一人が自由に遊びを選択して遊ぶ活動	段階	評価項目	いいえ	はい	備考(注釈・事例など)
		1	1-1 子どもが自由に遊びを選択して楽しめる時間がない 1-2 自由に遊べる教材や遊具、空間がない、あるいは、教材があっても、年齢や興味に合っていない 1-3 子ども達の遊んでいる姿に興味を持ち、関わる保育者がいない		
<項目の視点> ★ 時間 ★ 適切な教材や活動 ★ 保育者の関わり	段階	評価項目	はい	いいえ	
	2	2-1 子どもが自由に遊びを選択して遊べる時間がある 2-2 子どもの年齢に合った教材などの環境が用意されている 2-3 子ども達一人一人が、楽しめるように、遊びに入れていない、見つけられない子には保育者が一緒に遊ぶなど関わりがある			2-1 自由に遊びを選択して遊ぶ活動とは、自発的・主体的に過ごすことができる時間ということ。 2-2 子どもの人数に対して極端に教材や遊具が少ない場合は、数をそろえることが必要になる。 教材や遊具の数は、多ければいいということではなく、園内で、子どもの課題に合わせて意図的にコントロールされているかが重要。 自由に遊びを選択して遊ぶ時間に、物の取り合いや、けんかなどを経験し、解決してうまくいく体験をすることが大切。
	3	3-1 子ども達が、自由に遊びを選択して遊べる時間がある(室内だけではなく、外で体を使って自由に遊べる時間がある。) 3-2 年齢や季節に合わせた教材が用意されていて、一人あるいは、保育者や友達(異年齢も含めて)と関わって遊ぶことができる時間や、場所がある 3-3 保育者は、子どもの興味や関心に合わせて遊びを楽しみ、共に考えている 3-4 保育者は、一人一人が遊んでいるかを気にして関わる(どんな遊びをしているのかを記録したり、継続して観察している)			3-3 環境を再構成していくなど配慮や援助をする 子どもが自由に遊びを選択して遊べる時間に、主体的に遊び始めたことを、保育者が方向付けして、集団遊びにつなげるなど、放任するのではなく、保育者が配慮する。
	4	4-1 教材や遊具は、子どもの興味・発達に合ったもので、時期や子どもの姿に合わせて変えている 4-2 保育者は、自由遊びを通して、全体の様子にも注意をし、子ども達が、思考力、判断力、表現力が育つように興味関心を広げると共に、語彙豊かに関わる 4-3 保育者は、一人一人の遊びに寄り添い遊ぶことで、どんな遊びで、何を楽しんでいるのかを把握している			4-1 教材や遊具は、既製品だけでなく、例えば、台風で折れて集まった葉っぱや枝も、教材として使える。職員間で共有する時間や、連携が必要。

memo

② クラス集団で遊ぶ活動	段階	評価項目		いいえ	はい	備考(注釈・事例など)		
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <項目の視点> ★ 時間 ★ 適切な教材や活動 ★ 保育者の関わり </div>	1	1-1	話を聞く、待つ時間が長く、座っている見ているだけになっている			* 年齢によって、集団の大きさも変わる。子どもの姿から、無理のない集団の大きさ、活動を考える * 集団に入れる、活動に入れるというような見方ではなくて、友達と関わって遊ぶ活動として、「集団で遊ぶ活動」をとらえる。また、繰り返し活動して、どの子どもが経験できるようにすることも大切 2-2 年齢によっても活動が変わる。例えば、0歳児なら、少人数の真似っこ遊びなどから始まり、2歳児クラスでは、簡単な鬼ごっこなどへと年齢や時期に合わせて、変えていくことができているかを見る。 集団で遊んでいるかどうかということではなく、友達同士が意識して、みんなで楽しんで遊べる集団になっているかが問題。 4-2 自由遊びの活動の中で、集団で遊ぶ活動に入れていない子の好んで遊ぶ活動や、クラスの子も楽しんで遊んでいる遊びを客観的に捉え、活動に取り入れることも大切。		
		1-2	子ども達にとって興味、関心のない活動で、難しすぎるなど、子どもにとって何をしているのかわからない活動である					
		1-3	子どもにとって受け身の活動が中心で、どの子どもにも同じ活動をさせようとし、入って来ない子どもにも無理矢理させようとする					
		段階	評価項目		はい		いいえ	
			2	2-1	待つ時間が少なく、子どもが楽しんでいる遊びを繰り返し楽しんでいる			
				2-2	子どもの興味関心、年齢や季節に配慮して活動が考えられている			
				2-3	保育者は、個々の遊びを大切にしながら、年齢にあった集団遊びも楽しめる機会を作っている			
			3	3-1	一人一人に合わせて時間が設定されている			
				3-2	子どもの興味に合わせて、柔軟に活動を変えている			
				3-3	保育者は、子どもとの関係、関わりや、子ども理解から、応答的で柔軟に活動の方法を変えている			
			4	4-1	年齢に応じた集団の子ども達を楽しめる活動があり、遊ぶ時間の設定がある			
				4-2	子ども達の意見を反映して遊びを変えていき、子どもが楽しんで集団遊びをする			
4-3				保育者は、友達をつなげる活動の発展を提案し、方向づけしている				
4-4				一人で外れている子はいない、または、保育者は、外れている子どもがいると必ず関わっている				

memo



4-1 年齢に応じた子どもが楽しめる活動

③ 障害のある子どもへの配慮	段階	評価項目		いいえ	はい	備考(注釈・事例など)		
<p><項目の視点></p> <ul style="list-style-type: none"> ★ 共に育つ保育 ★ 保護者への配慮 ★ 合理的配慮 ★ 環境や設備、遊具、道具などの配慮 ★ 研修 	1	1-1	障害のある子どもは、クラスの子と関わらず、個別に保育している			<p>1-3 例えば、「部屋にいないので、いるように保護者さんから言ってください」など、共に考え寄り添うのではなく、保護者に解決を依頼するようなこと。</p> <p>2-1 豊中市の障害児保育基本方針など参考にしながら、共に育つという視点で保育できているかどうか。</p> <p>3-2 理解を深めるための教材(絵本など)や、保護者からの聞き取りなどを通して、保育者だけでなく、クラスの子どもも理解できるようにする。</p> <p>3-3 他機関：児童発達支援センター、障害児通所施設、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、臨床心理士、医師などの専門職、支援学校、教育センターなど。 特別支援コーディネーターをたてて支援をしているか。(支援の方法について、その子の課題により、変えていけるような体制があるかなど、長期的な育ちの共有が必要)</p>		
		1-2	障害に対して、理解しようとしていない(保育者も子どもも)					
		1-3	困ったことがあるとなんでも、保護者に解決をお願いするなど保護者に対する配慮がない					
		1-4	その子どもの興味や障害に合わせた設備や遊具、道具などの配慮がない					
	2	段階		評価項目			はい	いいえ
		2-1	障害のある子どもの支援計画、指導計画があり、クラスの一員として保育が行われている					
		2-2	保護者と悩みや、保育内容について共に考えるなど、話をする時間や場所がある					
		2-3	その子どもが生活しやすい援助の方法を、保育者が知っていて、対応することができる					
		2-4	その子どもに必要な設備や遊具、道具などが用意されている					
	2-5	障害児保育について全職員が研修を受ける機会がある						
	3	3-1	障害のある子ども一人一人を、子どもなりに理解しようとし、興味や特性などを配慮して活動をしている(障害のある子どもも含めて、お互いを認め合い育ちあっている)					
		3-2	その子どもが心地よく生活していくための援助の方法を子どもが知っていて、自然に援助している					
		3-3	障害のある子どもを園全体で理解し保育内容やその子に必要な設備や遊具、道具などがよりよくなるように他機関との連携が定期的に行われている					
		3-4	ケース会議や小学校との引継ぎなどが必要に応じて行われている					
3-5		保護者との対話があり、保育の進め方などについて、保護者の思いを大切に進められている						
3-6		保護者同士の関係をコーディネートしている						

memo

★環境を見るだけでは、わからないことが多いので、聞き取りを行う。(詳細をこちらにメモ)

④ 家庭に配慮を要する子ども【*】への関わり	段階	評価項目		いいえ	はい	備考(注釈・事例など)			
		いいえ	はい						
<p>* 家庭に配慮を要する子どもとは、虐待ケースだけでなく、外国にルーツを持つ子どもなど社会的に差別を受けている家庭も含んでいる。</p>	1	1-1	他機関とどのように連携すればいいかわからないので連携していない			<p>2-2 子どもが落ち着いて保育を受けられない場合には、落ち着けるように個別に対応するなど、保育内容の工夫をすることも必要。</p> <p>3-1 頻繁に、詳細な記録を取ることが必要。 (家庭支援日誌など) * 他機関;池田子ども家庭センター・こども相談課・児童生徒課・児童虐待防止協会・警察など</p> <p>3-3 例えば、ネグレクトなどで、ご飯の用意してもらえない場合は、園でご飯を炊く体験を行う(宗教的なことなど食事や行事と関わってくる問題もあるので、配慮が必要)など子どもの生活に根差した豊かな体験を増やす活動。</p> <p>3-4 保護者の現状から、何ができて何ができないかはっきりさせたうえで丁寧な話し合いや支援を行う必要がある。</p>			
		1-2	登園してこない子どもなどがいても、配慮や援助がない						
		1-3	虐待など、子どもの様子を把握していない また、そのことについて、研修に参加したことがない						
	<p><項目の視点></p> <p>★ 他機関との連携</p> <p>★ 必要な配慮や援助</p> <p>★ 虐待など見逃さない職員の関わり(研修など)</p>	2	段階		評価項目		はい	いいえ	
			2-1	保護者の話を聞く時間や場所があり、必要があれば他機関に繋げている					
			2-2	保育者は、子どもの様子を見て、気持ちを受け止めたり、保護者の話を聞いて共感したり、励ましたりする					
			2-3	視診を徹底したり、生活の中で、身体の様子を把握したりする					
		2-4	職員が研修に参加し、虐待の基礎的な事を知り、理解を深めている						
		3	3-1	他機関や専門分野の方との定期的な連携の機会(ケース会議など)があり、情報を共有し、アドバイスを受けている					
	3-2		子どもの姿や保護者の話を受け止め、その背景を理解して、配慮や援助をする						
	3-3		子どもの家庭背景を踏まえた状況から、子ども自身が必要な力を付けるための援助方法を考える						
	3-4		保護者の自立のために必要な援助を他機関と連携して積極的に行う						
3-5	職員全体で、研修の機会を持ち、対応の仕方や、必要な援助など理解を深めている								
3-6	虐待などの実態があれば、適切な対応をすることができる								

memo

★環境を見るだけでは、わからないことが多いので、聞き取りを行う。(詳細をこちらにメモ)